

TIA-MEMSウィンターセミナー 「第35回MEMS講習会」開催報告

2023年2月2日(木)にMEMSセンシング&ネットワークシステム展2023開催中の東京ビッグサイトにおいて、展示会併催プログラムとして、会議棟102会議室にて、TIA-MEMSウィンターセミナー MEMS講習会「MEMS最前線 大学におけるMEMS研究の面白さ」を対面にて開催いたしました。今年度は、TIAオリジナルメンバーの筑波大学に加えて、その後新たにTIAに加わった、東京大学、東北大学の三大学の教授から、MEMSに関する研究の取り組みや最新の研究成果を講演していただきました。

まず初めに筑波大学 数理物質系 鈴木博章教授(写真1)から、環境計測や医療現場での応用を目的とした電気化学測定デバイス・光センシングデバイスの研究や、それに伴うマイクロフルイディックデバイスの研究の紹介がありました。また、大学におけるMEMS研究の面白さとして、研究テーマの選択は全く自由で、企業ではやりにくい将来的なテーマであらゆる可能性を模索できるところであるとコメントされました。

次に東北大学マイクロシステム融合研究開発センター 戸津健太郎教授(写真2)から、「自分で考えて、作って、評価できる、MEMSの面白さ」と題した講演を行い、MEMS成功のポイントは、「目標とする特性、構造と材料、作製プロセス、評価方法の4つを相互に検討し、最適解を探すこと」であり、そのMEMSの醍醐味は「これらを一貫して自分でできること。自分で考えたものを自らの手でカタチにして使えるように仕上げること」であると、強調されました。そして講演の最後に東北大試作コインランドリのクリーンルームの様子を生中継で紹介しました。

最後の講演は、東京大学 大学院 工学系研究科 三田吉郎教授(写真3)で「作って測って世界初」との題目で、幼稚園児の時に「科学者になりたい」という夢を実現させるまでの半生を、ご自身のMEMS研究の歴史を織り交ぜて紹介しました。世界初の泳ぐMEMSとして、バブルジェット型アメンボロボットの研究など、大変ユニークな研究内容でした。

当日は、寒風吹きすさぶ寒い一日で、朝早くからの開催にも拘わらず、三講演とも満席礼止め状態でした。しかし、メインターゲットとする大学生、大学院生の参加がなく、開催時期や募集、告知の方法などを含めて再検討して参りたいと思います。

講演の様子



写真1 筑波大学 鈴木博章教授



写真2 東北大学 戸津健太郎教授

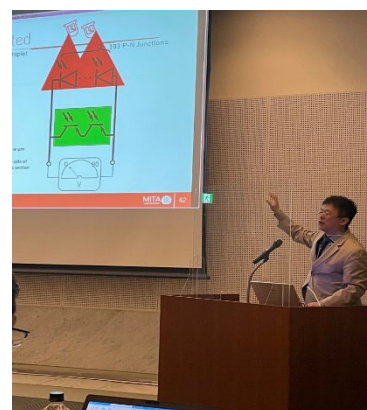


写真3 東京大学 三田吉郎教授

開催日	2023年2月2日(木)
会場	東京ビッグサイト会議棟102会議室 ※MEMSセンシング&ネットワークシステム展2023と併催
主催	一般財団法人マイクロマシンセンターMEMS協議会
参加者数	77名(社会人 77名)

TIA連携大学院 News Letterのバックナンバーは、ウェブサイトでご覧になれます。

<http://tia-edu.jp>



●編集・発行・連絡先:

国立大学法人 筑波大学 TIA推進室 tia-edu@un.tsukuba.ac.jp
〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1